まちづくり未来新聞
第3号
2022年
(令和4年)
7月27日
発行
発行者
広尾町企画課
☎2-0184

海！山！川！　キャンプ！キャンプ！キャンプ！

アウトドア資源の可能性探る

町民19名

～ 多世代、異業種が集い未来を語り合う～

広尾町は、今年度の「まちづくり町民みらい会議」をスタートさせた。「みらい会議」は、昨年度から始めたまちづくりに町民の声を反映させる取組で、無作為に抽出した千人の町民に案内状を発送し、これに応じた１９名を新たなメンバーとし、まちのアウトドア資源について意見を出し合うワークショップ（ＷＳ）を行った。

７月11日に町児童福祉会館で開催した第1回会議に17名が参加し、3つのグループに分かれ意見を出し合った。

２年目となる今年度のテーマは「海！山！川！地域資源を活かしたアウトドアによるまちづくりの可能性」。かねてからアンケートや懇談会などでまちの豊富なアウトドア資源の優位性を指摘する声が多くあり、これらを今後のまちづくりに活かすためのアイデアを引き出すことをねらいとした。

会場は、十勝でアウトドア観光を推進する（株）デスティネーション十勝（以下、ＤＴ）が設えたキャンプ用のテーブルやチェア、ランタンなどがアウトドア気分を演出、参加者はリラックスしたムードでグループワークに臨んだ。

冒頭、村瀬優町長は、「町ではシーサイドパークキャンプ場のあり方も課題となっている。ぜひ皆さんの意見を参考にしたい。」とあいさつ、その後、ＤＴの佐藤洸マネージャーが近年のアウトドア市場の動向などを紹介、続けて今年度町の水産商工観光課に着任した地域おこし協力隊の磯野巧氏から、広尾町における体験型観光の取組について発表があった。町内で体験型観光を推進するピロロツーリズム推進協議会にも参加する磯野氏は、観光目的地としての広尾町の現状を分析、不利な条件をプラスに転換するため、実践を通じて体験型観光の可能性を考察し、浮き彫りになった課題を参加者に投げかけた。

スノーピーク製のテーブルとチェアでアウトドア気分を味わう参加者

その後のＷＳは、ＤＴの中村真也氏がファシリテーターを務め、10代から60代までの参加者が「過去にあって今ないもの」「現在あるもの」「未来あったらいいもの」をそれぞれ色分けした付箋紙に書き出し、グループごとに意見交換をしながら模造紙に貼り付けた。各グループには異なる職業や年代の参加者が入り混じり初対面の人もいる中、意見を出し合ううちに徐々に盛り上がりを見せた。年配の参加者が挙げる「過去にあったもの」の中には若い参加者が生まれる前のものもあり、それぞれの世代が「古くて新しい魅力」を発見しあった。

終了後、田中靖章副町長は、「ＷＳは制約の無い中で自由に楽しい意見交換が出来る。皆さんのまちづくりに対するアイデアはすべてが実現できるとは限らないが、多くの町民の熱意が高まることで前進する。今後も積極的にまちづくりに参加してほしい」と講評を述べた。事務局の企画課は、今年度アウトドアをテーマとした町民交流イベントを開催することとし、参加者に同イベントの実行委員会への参画を求めた。

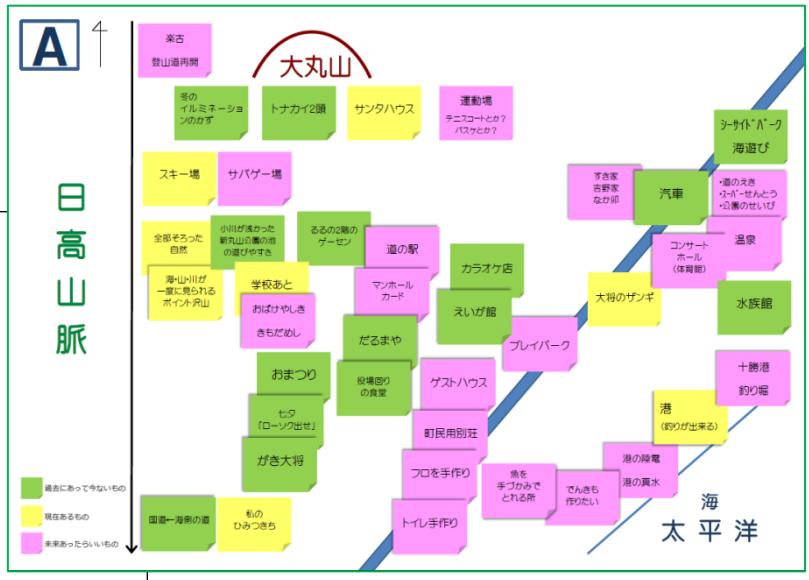
次回以降の会議では、今回出された意見を基に議論を深めていく予定としている。

活発に意見を出し合う参加者

町民参加で、まちをもっと盛り上げよう！

－ 班ごとにまとめた意見をご紹介します（一部を抜粋）－

A班



過去にあって今ないもの
★水族館　★汽車　★トナカイ２頭
★役場回りの食堂　★えいが館　など

現在あるもの
★サンタハウス　★港（釣りが出来る）
★全部そろった自然　など

未来あったらいいもの
★サバゲー場　★道の駅
★ゲストハウス　など

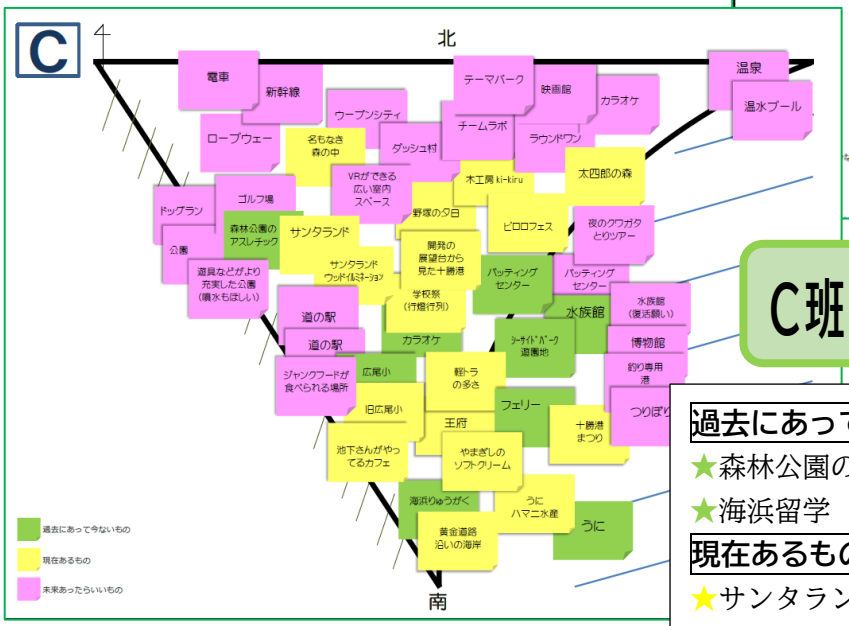
B班

過去にあって今ないもの
★ゆるやかな川　★遊園地　★海水浴場
★ゲームセンター　★若者が集まる場所　など

現在あるもの
★太平洋からの朝日　★日高山脈の美しさ
★グリーンパーク　★草原（平らな）　など

未来あったらいいもの
★海が見えるカフェ　★整備された公園　など

C班



過去にあって今ないもの
★森林公園のアスレチック　★カラオケ
★海浜留学　★フェリー　など

現在あるもの
★サンタランド　★名もなき森の中
★野塚の夕日　★黄金道路沿いの海岸　など

未来あったらいいもの
★ロープウェー　★温水プール　★つりぼり　など

詳細は、こちらから